

これまでの議論の整理 (人口、都市形成)

1. 人口に対する考え方

- 我が国においては、人口減少、少子高齢化が急速に進行しており、帯広市においても人口は減少傾向にある。
- 人口は、まちの活力や自治体経営の持続性などと密接に関係するものであることから、結婚や出産、子育ての希望がかなう社会環境の整備などの取り組みによる自然動態の改善や、魅力ある仕事の創出、十勝・帯広への新たなひとの流れの形成などの取り組みによる社会動態の改善などを進めながら、将来の人口減少を極力抑制していく必要がある。

■ 審議会での主な意見

- 人口を増やすためには、産み育てやすい地域を目指し、出生率を上げる取り組みを重点化することが重要ではないか。
- 不安なく子どもを産み育てることに手を差し伸べる政策によって帯広の魅力が増し、管内近隣からも帯広に移住するきっかけになるのではないか。
- 高等教育の修了後に帯広に戻って来ることができる仕組みが重要と考える。
- 人口減少が他地域と比べて緩やかであるという事実がある。これには、必ず何か原因があるはずであり、その要因を分析して良い点を伸ばしていくべきではないか。

2. 都市形成に対する考え方

- 帯広市は、これまで、「都市と農村が調和したまちづくり」という考え方のもと、秩序ある土地利用、計画的な市街地の形成を図っている。
- 今後、人口減少等に伴い、都市地域においては、人口密度の低下や空き地・空き家の増加などが懸念されるほか、都市インフラの老朽化の進行などに伴い、公共施設や道路、公園などの改修や更新、維持管理に多額の費用が必要となるものと考えられる。
- こうしたことを踏まえ、これまで整備してきた市街地の機能を最大限に活かしつつ、効率的・効果的な都市機能の集積や産業系用地の確保など、都市の価値を高める基盤づくりのほか、既存ストックを有効的に活用するなど、計画的に都市づくりを進めていく必要がある。
- 農村地域においては、安全で良質な農畜産物を安定的に生産するため、土地改良や農業基盤整備などによる肥沃で優良な農地の維持・保全に取り組むとともに、生活環境の維持を図っていく必要がある。
- また、森林の有する多面的機能なども踏まえ、森林の適切な管理、保全に努めるとともに、引き続き、豊かな森林・自然公園地域の保全を図っていく必要がある。

■ 審議会での主な意見

- 人口が増えない状況下では、宅地が足りなくなることは無いはずなので、需要と供給がバランス良くマッチングされることが重要。
- 空家対策など、まちのコンパクト化を考えることが重要であり、どこに・誰が・どのくらい住んでいるかなどが分かると除雪なども効率的に行うことが出来るのではないか。
- コンパクトシティ化への方向性を検討することが重要ではないか。
- 帯広において農業は大変重要な産業であり、今後も基幹産業としての発展を期待していきたいという認識は全ての委員に共通するところである。（第4回審議会意見）
- 帯広市は、環境モデル都市に認定されるなど、組織的に環境対策を行ってきているが、資料からは環境に対する取り組みが後退したかのような印象を受ける。時代の潮流としては、環境に対する注目度が低下しているような雰囲気を感じるが、環境を取り組みの柱として掲げる必要ではないか。（第1回審議会意見）
- 耕地防風林について、農業の視点のみならず、観光資源をはじめとした多面的な機能を評価し、経費負担の手法等を考えていくべき。（第4回審議会意見）